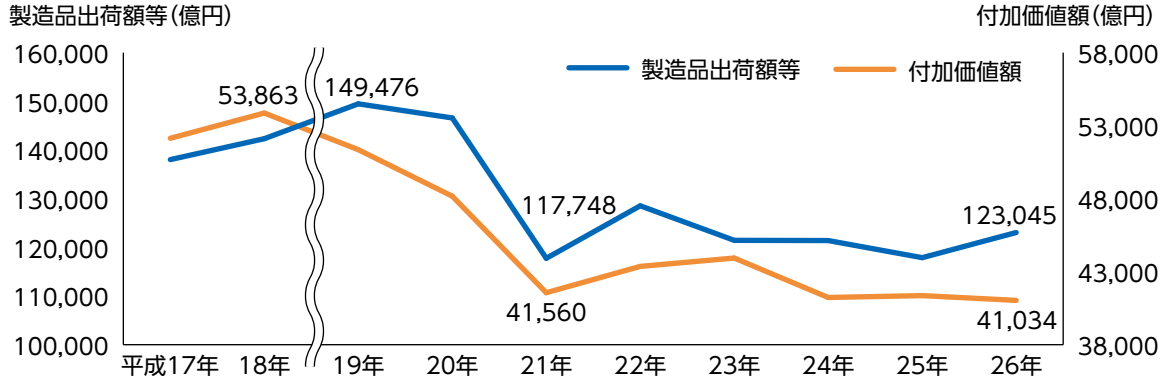


埼玉県の製造業

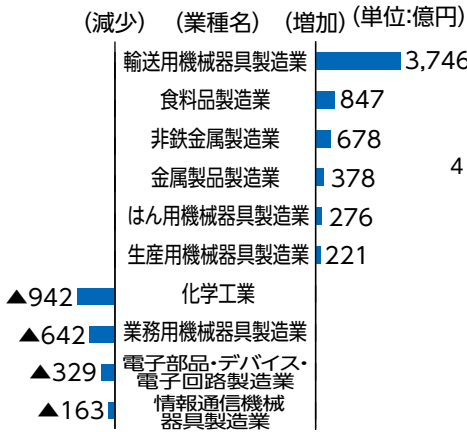
～4年ぶり増加に転じた製造品出荷額等～

製造品出荷額等・付加価値額の推移

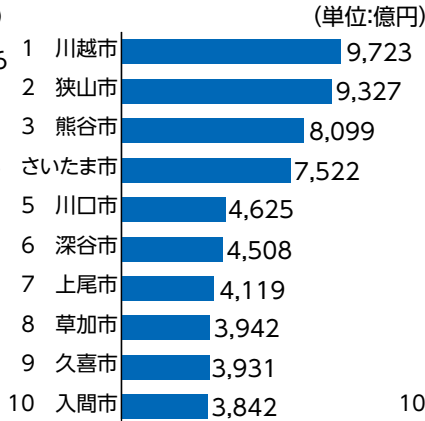


注1:対象は従業員4人以上の事業所 注2:平成19年調査は、調査項目の追加を行ったため前年の数値と接続しない
注3:付加価値額で従業員29人以下の事業所については租付加価値額

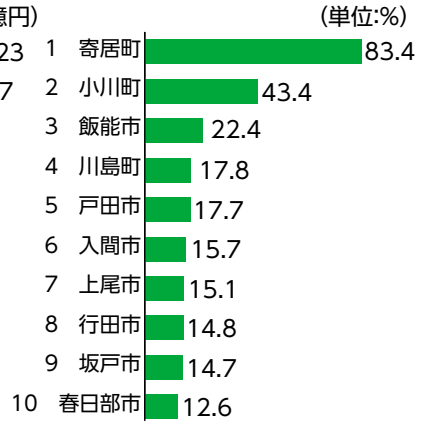
製造品出荷額等 業種別増加額 対前年



市町村別製造品出荷額等 (上位)



製造品出荷額等 対前年比増加率 (上位)



出所：平成26年工業統計調査（速報）埼玉県

県内製造業の動向をみる物差しとなる鉱工業指数（生産指数）は、依然として弱い動きを続けている。しかしながら10月に発表された平成26年工業統計調査（速報）の結果から既に若干の光明が見え始めてきている状況が推察できる。

地域における製造業の“チカラ”を表している製造品出荷額等が12兆3,045億円と4年ぶりに増加に転じたのである。12兆円超えは平成20年以來の出来事である。その要因を業種ごとに分析すると、輸送用機械が前年比3,746億円と断トツで増加し貢献していることがわかる。次いで食料品製造業の847億円、非鉄金属の678億円となっている。一方で減少していた業種では化学、業務用機械、電子部品・デバイスなどとなっている。

市町村別の製造品出荷額等の上位については前年比で順位の変動こそあれ顔ぶれに大きな違いはない。注目すべきは対前年比増加率の顔ぶれである。寄居町と小川町が大きく伸ばし上位となったことだ。これは取りも直さず両町でのホンダの本格稼働の賜物と言えよう。また川島町、坂戸市など圏央道効果の一端を示すものと推察できる状況も見てとれる。